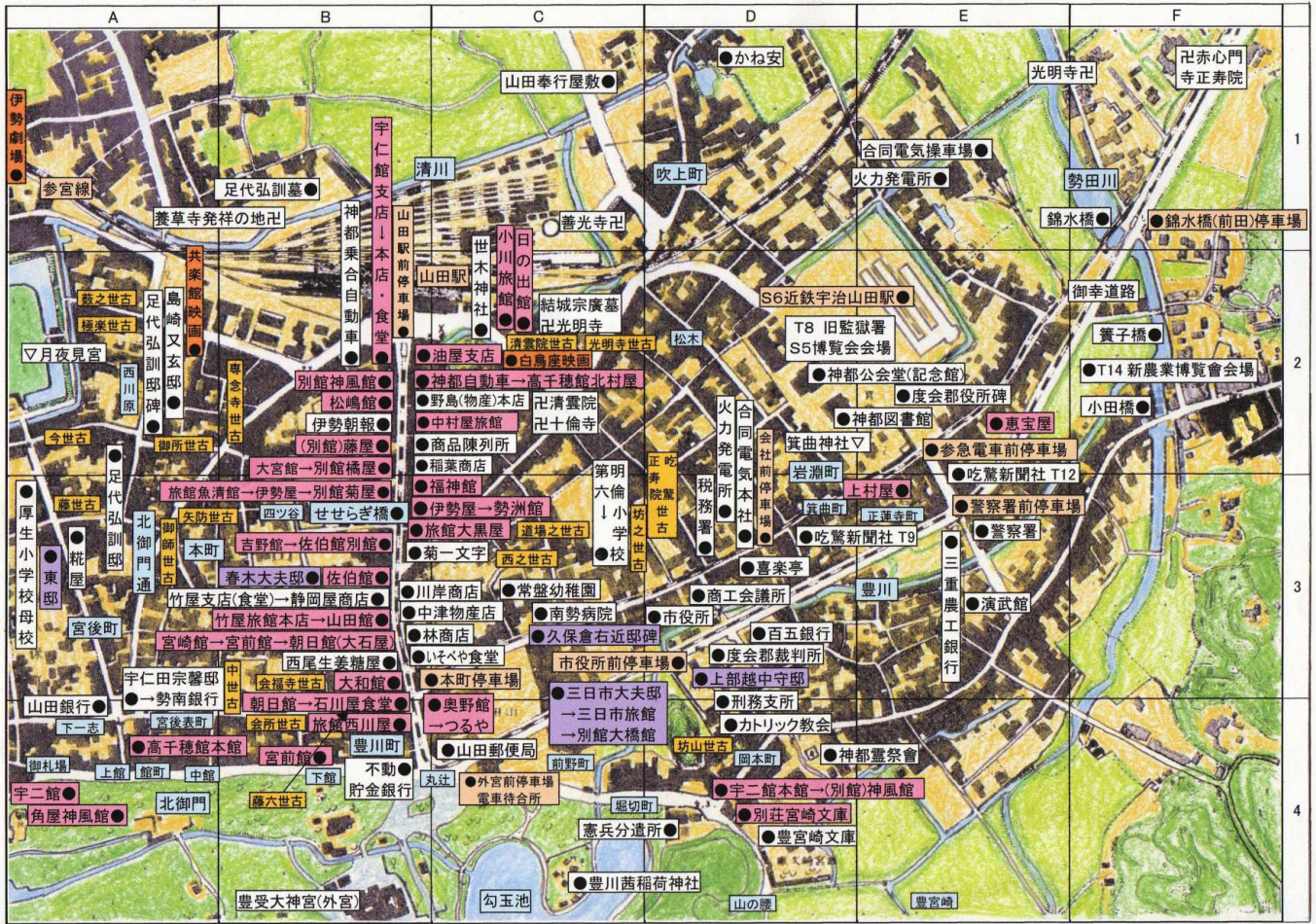


近世伊勢参宮名所図会

山田駅～宇治山田駅周辺

2023年09月01日



大日本帝国陸地測量部 昭和5年実測及仲岡修正の地図の一部を拡大し着色、古い絵葉書に出てくる名所について、あった(と思われる)場所について年代無視で示しています間違っている所や追加しなければならぬ所もあると思いますので、現地に行って確認し更に精度を上げたいと思っていますし、ご指摘いただければ幸甚です

公共	演武館	えんぶかん	E3	岡本1
公共	監獄署 T8	かんこくしょ	D2	岩淵1
公共	警察署	けいさつしょ	E3	岩淵2
公共	刑務支所	けいむししょ	D4	岡本1
公共	憲?兵分遣所	けんぺいぶんけんじょ	D4	豊川町



憲?兵分遣所の遺構門か?



門の飾りレリーフ



電話番号5?82番

公共	市役所	しやくしよ	D3	岩淵1
公共	商工会議所	しょうこうかいぎしよ	D3	岩淵1
公共	商品陳列所	しょうひんちんれつじよ	C2	本町

公共	御遷宮奉祝 神都博覧会会場	ごせんぐうほうしゅく しんとはくらんかいかいじょう	D2	岩淵2 昭和5年開催 後、近鉄宇治山田駅
公共	神都記念館	しんときねんかん	D2	岩淵1
公共	神都公会堂	しんとうかいどう	D2	岩淵1
公共	神都図書館	しんととしょかん	E2	岩淵1
公共	新農業博覧会会場	しんのうぎょうはくらんかいかいじょう	F2	岩淵2 大正14年開催
公共	税務署	ぜいむしょ	D3	岩淵1
公共	豊宮崎文庫	とよみやざきぶんこ	D4	岡本3 1648 外宮の神官が建立
伊勢市立郷土資料館 きょどしりょうかん(現在はありせん) 掛軸の作者の一人、山本五水についてはインターネットでも略歴などが調べられず、唯一、同館が開催していた特別展の記事にその作者の名前が載っていましたので、何か分かることはないかと同館を訪ねてみました。山本五水は近江の出身だということ以外に詳しいことは分かりませんでした。同館が出版している以下の資料を購入することが出来て大いに満足しました。また同館が時々、開催している特別展「神都の書画人」について、持っている掛軸が役に立つなら協力したい旨を伝えました。交流が出来るの良いのですが・・・？何しろ持っている掛軸は筆笥の肥やしとなっていますので、何かのお役に立てれば有難いと思います。 1. 地図で見る伊勢のあゆみ(明治33年発行 神都実測図、大正8年発行 宇治山田市平面図、昭和5年発行 宇治山田近傍 の各復刻版、現代の伊勢兼伊勢市文化財地図、地図でみる伊勢の歩み解説版) 2. 神都の書画人～郷土の先賢遺墨～ とそのⅡ 3. 伊勢の町と御師－伊勢参宮を支えたカー 4. 岳のケーブルカー～朝熊登山鉄道展～				
公共	南勢病院	なんせいびょういん	C3	岩淵1
公共	山田奉行屋敷跡	やまだぶぎょうやしき	C1	吹上2
公共	山田郵便局	やまだゆうびんきょく	C4	岡本町
明治05年 郵便取扱所一志久保町に開設 明治08年 山田郵便局と改称 明治13年 山田郵便局電信開始 明治24年 山田郵便電信局と改称 明治41年 電話交換開始 明治42年05月 局舎竣工 昭和44年、明治村に移築 残った後ろの電話分室は現在、レストランなどに利用されている。   				
公共	度会郡裁判所	わたらいぐんさいばんしょ	D3	岡本1
公共	度会郡役所 T8	わたらいぐんやくしょ	E2	岩淵2 近鉄宇治山田駅前
度会府庁跡碑 わたらいふちょう-あとひ 明治元年(1868)度会府設置 府知事 橋本実梁				
施設	大鳥居	おおとりい	B2	伊勢市駅前にあった松下幸之助氏 寄贈
学校	厚生小学校	こうせいしょうがっこう	A3	一志町
学校	明倫小学校	めいりんしょうがっこう	C3	岩淵1
川堀	勾玉池	まがたまいけ	C4	豊川町 人工で整形された
橋	小田橋	おだのはし	F2	尾上町
橋	錦水橋	きんすいばし	F2	岩淵3
橋	簀子橋	すのこばし	F2	岩淵3



度会府庁跡碑



錦水橋と東側の石標



箕子橋

錦水橋高札文: 外宮から御幸道路を東に進んで勢田川を渡る橋が錦水橋であります。全長36.7m、幅16m。青銅製の無銘の擬宝珠が計13基ついてます。明治36年(1903)8月、新しく倉田山に開館予定の徴古館へのための道路が、勢田川をまたぐ新橋を錦水橋と名付けました。古来伊勢市の名所の一つとして著名は岡本の里はまた、錦河内、錦の小河などと呼ばれていました。小田の橋から岡本町の南を流れるあたりは外宮の東に当たり、宮崎沖ともよばれて秋ともなると、あたりの山々は錦で彩られました。錦は秋のもみじをたとえた言葉であります。錦水の名のよってきたところであります。当時の古莊三重県知事の撰書である「錦水橋」の石標は、今も橋の東側にあり、静かに時の流れを見つめています。

道路	御幸道路	みゆきどうろ	EF2	本町～内宮へ
駅	宇治山田駅 S6	うじやまだえき	E2	岩淵2 参宮急行電鉄(現、近鉄) 駅前景観
駅	山田駅	やまだえき	BC2	吹上1 国鉄 伊勢市駅(現 JR)
駅	電車待合所	でんしゃまちあいじょ	C4	岡本1
駅	停車場 会社前	ていしゃじょう かいしゃまえ	D3	岩淵1
駅	停車場 警察署前	ていしゃじょう けいさつしまえ	E3	岩淵2
駅	停車場 外宮前	ていしゃじょう げくうまえ	C4	岡本1
駅	停車場 参急電車前	ていしゃじょう さんきゅうでんしゃまえ	E2	岩淵2
駅	停車場 市役所前	ていしゃじょう しゃくしょまえ	D3	岩淵1
駅	停車場 錦水橋	ていしゃじょう きんすいばし	F2	岩淵3
駅	停車場 本町	ていしゃじょう ほんまち	C4	本町
駅	停車場 前田	ていしゃじょう まえだ	F2	岩淵3 停車場 錦水橋の旧名
駅	停車場 山田駅前	ていしゃじょう やまだえきまえ	BC2	岡本1
教会	カトリック教会	かとりっくきょうかい	D4	岡本1 現、メリノール修道院
神社	神都霊祭會	しんとれいさいかい	DE4	岡本1 現、祖霊社 以下の碑全てが祖霊社内にある



現祖霊社 古市入口に当たる角にある永代常夜燈 山口直庵碑 足立弘訓寛居翁碑 虎疫(コレラ)記念碑

祖霊社高札文: 祭神: 天照大御神、宇布須根神。明治2年、氏神社の祠官・祠掌により齋行された神葬祭が、当祖霊社歴史の始まりであります。明治維新の人教宣布運動の流れの中で神宮司庁に神宮教院が設けられ、常明寺跡(現・倭町金刀比羅神社辺り)に説教所を開設、神道の普及活動が始まりました。この説教所は明治9年に宮崎文庫へと移り「神宮講社」と呼ばれていました。頃を同じくして、西南の役に出兵、名誉の戦死を遂げた神都出身者の慰霊祭を油田長民少宮司が初代の斎王として執り行い、今日の霊祭の源となりました。さらに明治11年、現在地に祖霊社(建築物)が創建され、御本殿に造化神、信徒の祖先神霊が祭られました。その後、神風講社はさらに全国へ広がり、当所は神宮第一教区本部・大神宮祠でありました。さらに明治38年には、財団法人「神都霊祭會」として固有の葬儀・霊祭を引き続き行うこととなりました。のち昭和28年、宗教法人「霊祭講社」、同 56 年には「祖霊社」と名を改め、現在に至っています。

山口直庵先生の碑説明文: 出口延佳(1615元和元～1690元禄33)先生の彰功碑で、直庵はその号であります。外

宮祠官の家に生まれ、伊勢神道家として古典の研究、豊宮崎文庫の創建などに多くの功績を残しました。碑にはその生い立ち・著作・文庫の創建などが記され、その功を称え「本居古事伝も、谷川日本書紀通証も皆、先生が淵源だと言うでよい」と刻まれています。

寛居翁碑の説明文: 足立弘訓(1784天明4～1856安政3)は、伊勢に生まれ、通称を権大夫・寛居と号しました。幕末における代表的な国学者の一人として活躍、神都の学問振興のため寛居塾を開き、天保の飢饉の時には救済に力を尽くしました。これはその数々の功績を称えた碑です。碑の建設は明治維新の変遷のため大きく遅れましたが、明治38年11月5日、弘訓翁の50年祭にあたり、碑建立の旨上間に達し、明治天皇より御下賜金があったことによって、この記念碑が建てられました。

虎疫(コレラ)記念碑の説明文: 明治19年、三重県内にコレラが流行し、多数の死者が出ました。碑には、その時の悲惨な様子が記録されています。死者の殆どが貧困者で、葬儀も行えない有様であったため、コレラのおさまった明治20年、弔祭を行い、この恐ろしい病の戒めとするため、ここに記念碑が建てられました。

濱田 國松(はまだくにまつ):(1868明治元年4月2日～1939年昭和14年9月6日) 日本の政治家。第30代衆議院議長(1934～6年)。現在の三重県伊勢市の山間部に生まれ、濱田清三郎の養子となる。三重師範学校を卒業後小学校教員となるが、その後上京し、1891年明治24年、東京法学院(現・中央大学)を卒業、弁護士となる。1904明治37年、旧三重県郡部選挙区から衆議院議員に初当選する。後、連続12回当選。甲辰倶楽部→政友倶楽部→猶興会→又新会を経て、1910明治43年、立憲国民党の結成に参加する。その後、衆議院副議長(1917～20年)を経て、1922大正11年に犬養毅と行を共にし、革新倶楽部を結成する。1925大正14年)立憲政友会に合流。1927昭和2年、田中義一内閣の司法政務次官となり、1934昭和9年に衆議院議長に就任する。議員生活の最後まで、自由主義・反ファッショの姿勢を貫いた。1937昭和12年には寺内寿一陸軍大臣との間で、日本の議会政治史上に残る有名な「腹切り問答」を展開し、軍部支配の只中であって政党政治家の気概を見せた。

出典: フリー百科事典『ウィキペディア』



濱田國松顕彰碑



濱田國松邸跡碑

神社	世木神社	せぎじんじゃ	C2	吹上1
神社	月夜見宮	つきよみのみや	A2	宮後1
神社	豊受大神宮	とようけだいじんぐう	B4	豊川町 外宮
	大晦日の外宮	   どんど焼きと月 大晦日は満月だった 去年はこれらのお曳き車で各町内が神宮へ献木しました 伊勢市駅前のコミュニティ通りの蠟燭デコレーション みなさん、頑張っています		
神社	豊川菫稻荷神社	とよかわ あこね いなり じんじゃ	C4	豊川町
神社	箕曲松原神社	みのわ まつばら じんじゃ	E2	岩淵1 明治3年八王子社を箕曲社と改称



世木神社



箕曲松原神社



豊川菫稻荷神社

豊川菫稻荷神社高札文: 主祭神: 天牟羅雲命御玉(あめのむらくものみことのみたま)、宇迦之御魂神(うかのみたま)

のかみ＝天照大神の弟である須佐之男命の子で、母は神大市比賣命＝豊受毘賣命で外宮の大神と団体・・・神社の案内文より転記)、ほかにえびす命、菅原道真公などを合祀。山田産土神(うぶすなかみ)8社の一つ。宝物;獅子頭1個、1559永保2年、在銘・県文化財達2口。外宮神苑・勾玉池のほとりのこの地は、上古「赤畝(あかうね)」と呼ばれた土地。古くこの地に鎮座した本社は「赤畝の社」と呼ばれ、外宮の摂社であったもと推定されます。創祠は不詳ですが、14世紀ごろの記録(豊受大神宮祢宜補任次第)がそれを語っています。しかし、やがて本社は、歴史の流れの中で荒廃し、室町時代に至って土地の人々の産土神としてよみがえります。かつての赤畝の社はなまって「あこね」となります。「茜」の字があてられたのは明治初期です。

寺	光明寺	こうみょうじ	F1	岩淵3
山田市の代表的な古刹で、かつては山田駅前の東半分近くを占めていて、その南西部の一画にあったのが結城宗廣の墓所である。寺は1670寛文10年の大火で現在地(前田)に移転したが、昭和5年当時はその墓所が山田駅横に残っていた。この墓所はその後、光明寺に移転した。写真集 明治大正昭和 伊勢より				
   				
光明寺とその石標 光明寺境内にある結城宗廣墓 赤心門寺正寿院 光明寺石標の文:基光大居士寄進の堂舎は寛文10年11月山田の大火に焼失、奉行の命により現在地に再建す、此の四足門は安永6年、月舟観禅師(姓は北岡・鹿海の人也)の建立				
寺	赤心門寺正寿院	せきしんもんじしょうじゅいん	F1	岩淵3
寺	善光寺	ぜんこうじ	D1	吹上1
墓	結城宗廣墓	ゆうきむねひろーはか	C2	吹上1 現在は岩淵3 光明寺 内にある
1266文永3年～1339延元3年/暦応元年。鎌倉時代から南北朝時代にかけての武将。父は結城祐広。母は熱田範広(大宮司)の娘。官位は上野介。子に結城親朝と結城親光がいる。位階は贈正三位。はじめ北条氏の忠実な家臣として南奥州方面の政務を任されたが、後醍醐天皇から討幕の綸旨を受けると朝廷側に寝返って新田義貞と共に1333年に鎌倉に攻め入り、鎌倉幕府を滅ぼしてしまった。その功績により、後醍醐天皇から厚い信任を受けて北畠顕家が多賀城に入ると、諸郡奉行に任じられて共に奥州方面の統治を任されるに至った。 1336年、足利尊氏が京都に攻め入って同地を一時、支配下に置くと顕家と共に軍を率いて足利軍を攻め、朝廷軍の京都奪還で大いなる功績を挙げた。その後、九州に逃れた尊氏が再起を果たして西上して来ると、顕家と共に足利軍と懸命に戦ったが、1338年に顕家が高師直と戦って敗死したために軍は壊滅し、宗広は命からがら後醍醐天皇がいる吉野へと逃れた。その後、宗広は南朝勢力再起のために、北畠親房と共に海路から奥州へ向かおうとしたが、海上で遭難して伊勢国で立往生し、間もなく同地で発病して病死した。墓所は津市の結城神社。または伊勢市の光明寺。フリー百科事典『ウィキペディア』より				
墓	足代弘訓 墓	あじろ ひろのりーはか	B1	宮後2
邸	足代弘訓 邸	あじろ ひろのりーてい	A2	宮後1 母校厚生小学校そば
天明4年(1785)～安政3年(1856)は、日本の江戸時代後期の国学者、歌人。号は寛居(ぬたい)。通称は式部・権太夫。父は伊勢外宮祠官足代弘早。伊勢国の人。伊勢内宮の荒木田久老に国学を学び、久老の没後は本居春庭・本居大平の門に入った。伊勢国山田の鈴屋の師道者とし活躍した。京阪や江戸に出て多くの文人と交流している。神宮内では祠官の墮落に対して弊風を肅清する運動を展開、天保の大飢饉に際しては窮民救済の運動を行った。幕末期には、多くの志士と交流し、一方で弟子の教育にあたった。門下に正住弘美、志田義貫、生川正香、白井重固、渡辺政香。友人に大塩平八郎。フリー百科事典『ウィキペディア』より 邸跡碑は上の地図の島田又玄邸の位置付近にある。				

					
	足代弘訓邸跡碑	足代弘訓墓碑	墓隣にある養草寺発祥の地	養草寺	出口延佳邸跡碑
邸	東邸(御師)	とうてい	A3	一志町	
	古今伝授創始者を祖に持ち累代文墨の才人を輩出したという東 常緑(とうのつねより)邸				
邸	宇仁田宗馨邸	うにだ そうけい?	A4	本町	後、勢南銀行八日市場支店が建設
	元羽書屋? 企業人として知られる。総樺作りの邸宅は吹上2丁目の野八商店が買い取り移築した。現在の野八商店の表玄関として保存されている、といわれていましたので現地を訪問しましたが無いようです? 写真集 明治大正昭和 伊勢より				
邸	久保倉右近(盛僚)邸	くぼくら うこん	C3	岩淵1	
	御師? 俳号、路草。伊勢神宮外宮の高級神官。芭蕉が貞享5年(1688)伊勢の滞在時同邸で歌仙興行した。				
邸	出口延佳 邸	でぐち のぶよし		岩淵1	現伊勢税務署裏
	江戸前期の国学者。伊勢山田の人。度会姓。通称与三郎・信濃・愚大夫。号は真庵・講古堂。外宮権祢宜従四位下。漢学、易理にも造詣が深く、古典蒐集、神学の述作に尽力し宮崎文庫を創設した。 1690元禄3年没、76才。				
邸	島崎又玄邸	しまざき ゆうげん	A2	宮後1	
	俳人。芭蕉の門人?。1688貞享5年、伊勢の滞in時は又玄宅で数週間過ごしている。芭蕉が亡くなった時に、「木曾殿と 背中合わせの 寒さかな」と詠んだ。 所在地不明。				
銀行	勢南銀行	せいなんぎんこう	A4	本町	太田小三郎等と神苑会や参宮鉄道を設立した宇仁田宗馨(元山田両替座)の邸宅があった場所にあった。同邸は吹上町の野八商店に移築されたという。
銀行	百五銀行	ひゃくごぎんこう	D3	岡本1	
銀行	不動貯金銀行	ふどうちよくぎんこう	C4	本町	
銀行	山田銀行	やまだぎんこう	A4	一志町	やはり、ここの場所にありました。建物は10年?くらい前までありましたね。
会社	本社	ごうどうでんき1	D3	岩淵1	現中部電力
会社	合同電気操車場	ごうどうでんき2	E1	岩淵2	
会社	火力発電所(本社)	かりよくはつでんじょ1	D3	岩淵1	
会社	火力発電所(操車場)	かりよくはつでんじょ2	E1	岩淵2	
会社	神都乗合自動車	しんとりのあいじどうしゃ	B2	本町	
商店	かね安	かねやす	D1	吹上2	のり 従兄弟家
商店	菊一文字	きくいちもんじ	C3	本町	刀剣
  					
合同電気本社跡現中部電力			菊一文字		



昔の位置に今もある百五銀行 商工会議所横堀城之橋

伊勢うどんの元祖？とせ



戦火を免れた町屋が結構、残っています。左2つは宇治山田駅そば。右は外宮前 丹川商店(現在はない)

商店	翹屋	こうじや	A3	宮後1 味噌醤油製造元 創業 文化13年
	  			
商店	野島物産	のじまぶっさん	C2	本町
御師	上部越中守邸	うわべえっちゅうのかみてい	D3	岡本1
御師	春木大夫邸	はるきだゆうてい	B3	本町
御師	三日市大夫邸	みっかいちたゆうてい	C4	岩淵1

旅館

ブログ「いにしへの伊勢」Jyugemuさんから教えていただいた昭和5年作成と思われる「参宮案内図」を参考に再検討をしました。次のような旅館の変遷があったのではないかと推測しています。外宮に向かって右側

- (1軒目)は宇仁館
- (2軒目)明治後期には神風館。その後、宇仁館本店に合併
- (3軒目)松嶋館
- (4軒目)藤屋がその後宇仁館別館藤屋に改称
- (5軒目)大宮館がその後別館橘屋に改称
- (6軒目)伊勢屋がその後別館菊屋に改称

時期的には昭和5年以降11年までに宇仁館によって別館化されたようです。

その先は、吉野館のち佐伯館別館、佐伯館と続き、現在の山田館の場所には竹屋旅館本店がありました。

その次は宮崎館、のち宮前館、さらに朝日館と改称された旅館があったようです。

宮前館は子供の頃は外宮前にありましたがその移転にはどのような経緯があったのでしょうか？また「参宮案内図」では、宮前館に次は大和館、朝日館の順になっていますが、昭和28年の写真では山田館、朝日館、大和館の順になっているようです。実際にどのようになっていたかは依然謎が残っていますが、それは伊勢市駅前に住まれた人達の苦労を物語っているようです。

昭和11年10月10日参宮協会発行のパンフレットによると市役所と御幸道路との間(随分狭いのですが?)宇二館系列の『三日市旅館』があったようです。



三日市大夫邸のあった場所
近くに今でも同名の方が
お住まいでした。感激です！

旅館	朝日館	あさひかん	B3	本町
旅館	油屋支店	あぶらやしてん	C2	本町
旅館	宇仁館	うにかん	B2	本町
旅館	北村屋	きたむらや	C2	本町
旅館	佐伯旅館	さえきりょかん	B3	本町
旅館	神風館	じんぷうかん		(宇仁館の掲げた取次ぎ看板だけ)
旅館	高千穂旅館	たかちほりょかん	C2	本町
旅館	旅館中村屋	なかむらや りょかん	C2	本町
旅館	別館大橋屋	べっかんおおはしや	C4	岡本1 宇仁館別館
旅館	別館菊屋	べっかんきくや	B3	本町 元伊勢屋、のち宇仁館別館
旅館	別館神風館	べっかんじんぷうかん	D4	岡本1 宇仁館別館
旅館	別館橋屋	べっかんたちばなや	B3	本町 元大宮館、のち宇仁館別館
旅館	別館藤屋	べっかんふじや	B2	本町 元藤屋、のち宇仁館別館
旅館	松嶋館	まつしまかん	B2	本町
旅館	山田館	やまだかん	B3	本町元宮前館 昭和2頃改称創業

伊勢に実家がある私には伊勢の旅館に泊まるなどと言うことは思いもよらぬことですが、今回は実家に内緒で前々から泊まってみたかったJR伊勢市駅前の外宮参道にある「山田館」に泊ってみました。私が子供の頃は、この外宮参道に3階建ての旅館がずらっと並んでいましたが、今や同館のみとなっていました。同館は昭和初期に建築されたということで80年程度経過しているようです。外観や玄関先は「千と千尋の神隠し」に出てくる銭湯のような感じです。3階にはトイレが無いそうですが、外宮を見下ろしてご不浄するのは失礼と言うのが理由だそうです。



立派な3階建て！2から3階への階段 昔は当たり前だった朝食メニュー 豪華！懐かしいケロリンの桶

旅館	大和館	やまとかん	B3	本町
----	-----	-------	----	----



外宮前つるや旅館 伊勢市駅脇元小川旅館(小川ビル)と日の出館 中村旅館(今は営業せず)若草堂

参考文献

フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』、伊勢商工会議所・伊勢文化舎発行「検定 お伊勢さん」写真集 明治大正昭和 伊勢二見小俣、目で見える伊勢・志摩の100年、図説 伊勢・志摩の歴史 下巻ほか 寛永20年内外宮領図(1643)、寛永中山田郷内惣図(1670)、山田惣絵図(1662)、御神領宇治山田町在惣図(1672) 享保年中宮川以東神領之図(1725 頃)、伊勢路見取絵図(1797)、山田町之図(1815)、山田町分細見(1850)、神都実測図(1900 明治33年)、宇治山田市平面図 宇治山田市編纂(1919 大正8年)、宇治山田商工業案内地図 発行者不明 (1920 大正9年)、宇治山田市(地図) 東京交通社発行 (1923 大正12年)、宇治山田近傍(地図)大日本帝国陸地測量部(1930 昭和5年) 橋爪忠三氏・川端義夫氏想起による作成地図の柴田勉氏他の転写地図 (明治初年・30年頃、大正年間～昭和15年、昭和3年・15年・20年末) 宇治山田市街図 滝川書店発行(1954 昭和29年)、伊勢・鳥羽周辺地域図 人文郷土地図発行(2005 平成17年)、その他、各種地図資料